

【 議 事 録 】（概要）

実施日時 令和7年7月7日（月） 18:30～20:30

会 議 名	越谷市総合振興計画審議会 環境・防災・経済部会 第1回会議	会場	越谷市役所本庁舎8階 第1委員会室
件名/議題	【越谷市総合振興計画審議会環境・防災・経済部会第1回会議】 1 開会 2 議事 (1) 第5次越谷市総合振興計画基本計画（素案）について 3 その他 4 閉会	資料：(■有 □無)	
出 席 者	<委 員>（8人） 〔1号委員〕 中島美三郎部会長、松崎一男副部会長、石井秀夫委員、 延寿寺和行委員、中村将義委員、宮川稔一委員 〔2号委員〕 白井俊市委員、松苗真吉委員、 <説明員>（15人） 渡邊危機管理室長、水口広報シティプロモーション課長、木村くらし安心課長、 豊田環境政策課長、窪田資源循環推進課長、大塚廃棄物指導課長、和田経済振興課長、 内田農業振興課長、田中都市計画課調整幹、齋藤消防総務課長、藤居予防課長、 吉成警防課長、上村救急課長、新開指令課長、坂巻スポーツ振興課長 <事務局>（5人） 倉澤政策課調整幹、尾崎政策課主任、石井政策課主事、 策定業務支援者：株式会社N T T東日本-関信越（2人）		
欠 席 者	なし		
傍 聴 者	なし		

●合意・決定事項

別紙（☒有 ☐無）

内 容
・ 会議の中で出た意見を部会報告書（案）に反映することとし、次回会議で審議することとした。

越谷市総合振興計画審議会 環境・防災・経済部会 第1回会議 会議録概要

<越谷市総合振興計画審議会 環境・防災・経済部会 第1回会議>

1 開会

- ・中島部会長から開会のあいさつ

2 議事（進行：中島部会長）

- ・傍聴者の確認（傍聴者なし）

（1）第5次越谷市総合振興計画基前期基本計画（素案）について

会長から審議の進め方について、大綱4と大綱5の大項目ごとに質疑応答、意見交換を進める旨委員に確認し了承を得た。

事務局から、部会での審議の流れ、【資料10】第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）の分野別計画（大綱4・5）、審議のポイント等について説明を行った

①大綱4について

（部会長） 大綱4について、何かご意見・ご質問等があればお願いしたい。

（委員） 91ページの課題に記載のある「生物多様性の保全・回復」について、2023年に新たに出されている生物多様性国家戦略などの施策や、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする30by30やネイチャーポジティブなどの概念といった、総合振興計画が策定された時期の後の政治的变化を反映し、生物多様性の保全・回復を目指しているのか。

（環境政策課） 国の施策や世界的な目標が変わる中で、反映することは必要であると考えている。大項目に具体的な記載はないがSDGsの関係や30by30などや国や県の状況等を踏まえ、また総合振興計画と合わせて環境管理計画の見直しも検討しており、参考にさせていただきたい。

（委員） 91ページの達成指標について、前期基本計画の温室効果ガスに関する達成指標を後期基本計画では「市民の環境に対する関心度」に変更した理由は何か。

（環境政策課） 大項目4-1「環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる」には、気候変動対策の推進のほかに、資源循環の推進や人との共生、公害防止・生活環境の保全など複数の施策の方向性が盛り込まれているため、達成指標として大項目に位置付けられている複数の内容と関連性が高い指標の設定がより適切であると考えている。市民の環境に対する関心度の向上をめざす姿に掲げている理由は、環境問題を自分自身の問題として自ら考え環境に配慮した行動につながるものと考え指標を変更した。また、市域からの温室効果ガスの排出量について、環境管理計画の指標の1つでも位置づけられており、継続して進捗状況を確認していきたい。

（委員） 市民の環境に対する関心度の目標値74%の根拠について、74%あれば、めざす姿「将来世代に豊かな環境につなげるため、すべての人が責任を持って考え行動している」という5年後の状態を実現できる、という根拠で記載しているのか、バックグラウンドが必要である。5年後の状態になるためにバックカスティングといった論理が必要である。

（環境政策課） 74%の具体的根拠は示すことができないが、令和6年度の関心度は68.2%であった。令和12年度にかけて、1年に1%ずつ、越谷市の人口34万人に換算した場合、1年ごとに3,400人の関心をさらに向上させる指標としている。ゼロカーボン推進の補助金や生物関係のイベントを含めて幅広い世代が関心を広げ、環境に対

する関心を高めていきたい。

(委 員) アンケートの取り方で数字は変化してしまうため、書き方や質問内容について工夫し整合性をとって取り組んでいただきたい。

(委 員) 大項目4-2の達成指標「自主防災組織のカバー率 95.1%」の目標値について、現状値より上げることができることから95.1%であるか、もしくは人口の何割をどの程度カバーすると目的を達成できる、という考え方なのか。カバーしていることとは別に、実際に機能するか測る指標も必要であると考えている。訓練されていると思われるが、プロフェッショナルとはレベルが違うため、できることとできないことがあると思う。

(危機管理室) 自主防災組織のカバー率について、現状値は93.3%であり、年間0.3%の増加としており、これは組織率の経年の数値から導き出した数値であり、さらに上げていきたいという考えを計画目標としている。中項目422「災害対策を進める」で「地域防災リーダーの養成講座参加者数」なども掲げ、地域防災リーダー養成講座の受講者数878名を1,400名までもっていくことができれば、自主防災組織の中のリーダー的な存在として、地域の防災について考えることができる人材の創出につながると考えられる。また、市では自主防災組織に対し、防災士の資格取得費用の補助も出しており、活用してもらうことで地域防災力の向上に取り組んでいる。

(委 員) 高齢化の進行も考慮し実効性のある働きをしていただきたい。

(委 員) 第5次総合振興計画のエネルギー問題について、我々や市民は環境を良くしようと努力し効果が出ているが、大国アメリカのトランプ大統領は、石油の使用に積極的な姿勢を見せていることに対し、どの国や政府も黙っている状況に私はむなしさを感じ、落胆している。自分たちの意見を、抗議や動議など真剣に実施していかないとけない。行政の方はどのような感想を持っているか。

(委 員) 個人的には、アメリカファーストやトランプファーストは考えられない。地球温暖化に関して、アメリカテキサス州は大洪水で100人以上が亡くなっており、地球上で何が起きてもおかしくない状況になってきている。我々のこのような地道な審議をしている中で腹立たしいと私自身は思っている。

(委 員) 難しい問題だ。

(委 員) 黙っているのは良くない。意思表示をすべきであると思う。

(委 員) 96ページ「災害時における応援協定の締結団体 目標値累計110団体」について、私の関係する団体等でも締結したいという話があり、応援協定を締結するための担当部署について知りたい。101ページ「市民による心肺蘇生法実施率 目標値60%」について、市内でAEDがどの位置に設置されているのか、マップの配布などの周知についてお聞きしたい。

(危機管理室) 危機管理室に直接相談して欲しい。

(救急課) AEDの設置場所の周知について、こしがや住まいるマップや埼玉県のアEDマップなどに、地図への掲載を許可した事業者が設置しているAEDの設置場所が公開されている。越谷市HPに、こしがや住まいるマップや埼玉県のアEDマップのアドレスリンクを貼ったり、救命講習会で近くのAEDがどこにあるのかを案内している。

(委 員) 周知が行き届くほど、蘇生率が上がると思う。

(委 員) 91ページ「市民1人1日あたりのごみ焼却量」について、前期進捗状況報告では「市民1人1日当たりのごみ排出量」と記載されており、排出量と焼却量の違いは、リサイクルされているものなども入っているためか。

(資源循環推進課) 前期基本計画の「市民1人1日当たりのごみ排出量」は、ごみステーションに出した資源ごみなどもすべてごみとして含まれており、後期計画では最新の国の指標を採用している。国は循環型社会形成推進基本法に基づき循環型社会形成推進基本計画

を策定しており、1人1日あたりのごみ焼却量について目標を定めており、本市においても採用したいと考えている。

(委員) 97ページ中項目423「地域の防犯力を高める」について、自主防犯活動団体とはどのような団体であるか。当組合でも、詐欺の被害が何回か発生し警察や金融機関に対応してもらっている。高齢者の方が安心して暮らせるまちにするために必要であると考えている。

(くらし安心課) 防犯ボランティア団体で、自治会や学校の保護者、地域の老人クラブ等が防災組織として見回り活動を実施している。

(委員) 「市民1人1日あたりのごみ焼却量」について、CO2の排出量を減らそうという話は他人事になってしまうため、CO2の排出量に換算するとどの程度減るのか等のPRを含めた実施を提案する。

(資源循環推進課) 越谷市のCO2の排出量の積算にはリユースのCO2排出量も含まれている。CO2に関して別の指標もあるが、意見は庁内で共有し、PRの活用について検討したい。

(委員) 「課題」という記載に対し、どのような行動を起こす予定か。95ページの「地域における防犯活動のより一層の充実が求められています」について、具体的な例は考えているか。

(くらし安心課) 97ページ中項目423「地域の防犯力を高める」に記載の地域防犯機能の強化に記載している内容が、課題への施策につながる。地域住民による相互の助け合いや地域の連帯感をより一層高め、自主的な防犯活動への支援に努めるとし、目標の達成に向け、市が自主防犯団体への支援として、防犯パトロールグッズの貸し出しを行うことの周知や、市内で行われているイベント等を通して活動について周知し、団体数の維持や増加を目指す考えである。

(委員) 101ページ「市民による心肺蘇生法実施率」について。消防の講習を受講しようと考え、予約状況を確認したところ6月の時点で10月まで埋まっていた。改善策を考えてほしい。

(救急課) なるべく多くの人に望むときに訓練を受けてもらうよう努力しているが、スケジュールや職員の体制等の要因があるため、意見として持ち帰りたい。

(委員) 「希少植物種の保護実施箇所数」について、一部の希少種で植物全体の生態系を守っているわけではなく、また、生息状態の異なる種を同じように保護する取組み・指標よりも、「生物の生息・生育に配慮した区域の面積」のほうが良いのではないか。

(環境政策課) 生物多様性の保全回復には、生育環境の保全や希少植物の保護、外来生物の駆除など図ることが重要であると考えている。市民団体と協力し希少植物の保護活動やビオトープ等の管理、外来生物の駆除に取り組んでいる。30by30等の国・県の動向を把握し、幅広く環境について取り組みたい。面積が出ていないが、希少植物について保護箇所を増やして、今後希少植物の保全にも努めたい。30by30の話になるが、自然共生サイトがあり、登録できるかどうか関係団体と協力して検討したい。

(委員) OECM(保護地域以外の地理的に画定された地域で、地域関連の価値とともに生物多様性の域内保全にとって肯定的な長期の成果を継続する方法で統治・管理されているもの)など検討しているようであれば、面積を入れてほしい。重要性の面で越谷市環境管理計画に入れるのは良いが上位の総合振興計画に入れるべきではないと考えている。箇所数は少しでもあればカウントされてしまうため、実現しやすいから入れているのではないかと感じる。また、内訳もわからない。花壇のようなところでフジバカマを保全し、生態系に寄与している、という考え方は生息域外保全といい、本来のある程度面積を持った素晴らしい自然を残すという概念からは外れているのではないか。

(部会長) 「自然・人が共生する社会をつくる」ことについて、どうするのが良いか検討をお

願したい。

(環境政策課) 意見として預からせていただく。

(委 員) 中項目422「災害対策をすすめる」の中で「地域防災力の向上」があるが、コロナ禍の後に、中断していた防災訓練を再開したところ、参加人数が大きく減ってしまったため、自治会や自治会連合会、コミュニティ推進協議会と連携し取り組んでいるが思うようにいかない。行政の支援を期待したい。

(危機管理室) コミュニティ活動の参加人数が年々減ってきている現状の中でも災害に対する備えは重要なことですので、行政としても地域の応援をしたいと考えている。今後、防災訓練のやり方や、避難所の運営訓練等今まで実施していなかった訓練について企画する予定のため、参加して欲しい。

②大綱5について

(部会長) 大綱5について、意見・質問等はあるか。

(委 員) 111ページの課題「市民と地域とのかかわりを増やし、地域への愛着や誇りを醸成していく必要があります」について、現状、市民へ自治会の配布物を配布できなくなっており、市民が自分で取りにいかないと情報が得られないことも課題にも入ってくると思われるが、地域とのかかわりを増やす具体的な策があるか。

(広報シティプロモーション課) 市民と地域との関わりをつくることはシティプロモーションの基本であり、参加ハードルを低くした市民ワークショップや市民が自由に情報を発信し共感できる場の創出に取り組んでいく予定である。

(委 員) 「業況がよい」と判断する企業の割合」について、企業規模などどのように統計をとっているか。市内事業者をどのように抽出し、アンケートの結果に至っているのか。

(経済振興課) 年4回、市内事業者約1万の内、無作為に500事業者を抽出し、事業者向けに、はがきなどを送り、アンケートに回答していただいている。

(委 員) 大企業や中小企業に偏っているかもしれないが、統計的手法として理解した。

(委 員) 「水辺を活用した取組み数」について、8月の灯籠流しに市は関与しているか、内容を認識しているか。

(経済振興課) 毎年7月に団体等がキャンドルナイトと称して実施しているのは確認しているが、灯籠流しについては認識していない。

(委 員) 7月最後の土日に越谷花火大会が開催されているが、同じ日程の墨田区花火大会に行ってしまう。日にちを変えることは可能か。

(委 員) 越谷花火大会を最初に始めたのは私である。墨田区花火大会と同じ日程の理由は、越谷市役所周辺はキャパシティが決まっており、同じ日に実施することで参加者を分散する危機管理の観点で同じ日にしている。市役所周辺に参加者は集まっている。

(委 員) 112ページ中項目522「市内の豊かな水辺」や、110ページ「水辺の景観や市民に愛される食など多彩な地域資源があり」と記載があり、いずれも市内の水辺を資源として考えられていると思われるが、豊かな、とは生物多様性と景観上のどちらの観点で記載しているか。生物多様性は、外来種が入ってきており、桜並木はクビアカツヤカミキリという外来種の被害があり食害されてしまっている。用水路沿いの桜を除いた主要な河川は、県は植え替えをさせてくれない。皆の「豊かな水辺」とは何を指しているか。資源について、SDGsのウェディングケーキモデルでは基礎に生物多様性などがあり、その上に経済などが乗っている。

(広報シティプロモーション課) 水辺の景観については、越谷市を代表する魅力の一つだと認識している。また、水辺については、そこで活動する市民や水辺を支える市民をイメージしている。「水遊都市」というブランドメッセージも策定したほか、ワークショップの中で水辺の景

観や水辺の賑わい、水辺で取り組む人たちとして広報番組に自然保護団体の方々にもご出演いただき、自然保護の取組みを取材した。水遊都市のステートメントにも、緑が集まるや水によってさまざまな認知が育まれたりすることを入れさせていただき、生物多様性と矛盾していないか環境政策課と相談し考えた。

(委 員) 生態系の観点も考えていたということがわかったが、何も働きかけをしないで自然環境の維持はできないため、環境政策課に予算をつけていただくなど力を入れてほしい。色々と補助するためにも手間とお金がかかる。外来生物が入り込んでいる状況の理解と認識をしてほしい。

(委 員) 115 ページ「地場農産物の認知度」について、「メロン」が入っていないのはどうしてか。越谷はメロンを打ち出していると思っている。

(委 員) 個人的に思うのは、繰り返し花が咲いて収穫できるいちごと違い、メロンは1玉しか取れないため、費用対効果を考えると利益にならないのではないかと思う。

(農業振興課) メロンは平成30年度から農業技術センターにて、町田式水耕栽培で試験栽培を始めさせていただいている。試験栽培段階であるため、市の特産物にはなり得ていない。今後、認知度向上のために取り組むが、今回はこれまで作られてきた農産物を対象に世論調査の中で認知度を測らせていただいている。

(委 員) ガーヤちゃんの蔵屋敷の前でメロンを買った際、これから越谷でメロンを作る話を聞いたが、地場農産物に入っていなかったため質問した。

(委 員) 農業について立地条件等の記載があるが高品質な商品を出さないと売れない。専業農家が何件あるか、また、何を作り、どうしているか。

(農業振興課) 国の農林業センサス統計調査の中で、総農家数は令和2年度では851戸あり、その内の、専業農家と販売している兼業農家を合わせた販売農家数は399戸である。5年前の数字のため、令和7年度に調査しているが減少していることが想定される。

(委 員) 越谷市は川に恵まれているため有益性・有用性を再認識し、行政には川を積極的に活用した施策を考えて欲しい。災害時に船を利用した河川での支援物資の運搬や移動といった、川を積極的に活用する施策を考えて欲しい。

(委 員) 中川を下って荒川から隅田川に出ることができ、船を利用する場合良い立地条件にあると思う。八条橋や潮止橋が老朽化しており、いろいろなことが想定されるため、一つの手段として考えられると思う。

(危機管理室) 現状では、災害時の川の利用は考えておらず、災害時の物資の運搬等については、道路輸送を想定している。緊急輸送道路も指定し、道路整備をして管理している状況である。色々な手段を持っているに越したことはないと思うため、参考とさせていただきたい。

(委 員) 114 ページ・115 ページの農業の多面的役割について、課題に「農業や農地は農産物を生産するだけでなく、保水・遊水機能による水害の防止や大気の浄化」等の記載があるが、後段では触れていないように感じたが、課題に書いて後段に出していない理由はあるか。田んぼダムの試験をしていることは認識している。

(農業振興課) 農地や水田は、多面的機能があると認識している。越谷の場合は水害が多いため、多面的機能の一つである保水・遊水機能について、今ある資源を利用した形で田んぼダムの実証実験を進めている。実証実験の段階であり、農家の理解がないと行えないため、効果や課題を確認している。さらに、多面的機能を保全する中で、地域の力は必要になることから、支援を展開している。達成指標には載っていないが多面的機能の維持に努めたい。

(委 員) 田んぼダムについては、試験中であると分かった。

3 その他

事務局から次回の審議会の開催予定について説明

(委 員) 報告書は1週間目途であると聞いたが、なるべく早く送付願いたい。ボリュームが多いため、確認をしたい。

(政策課) なるべく早めに送付できるよう努力をする。

4 閉会

松崎副部長から閉会のあいさつ

以上